

1 教育・保育施設

教育・保育施設の進捗状況について、別紙1「「のびゆくこどもプラン 小金井」(小金井市子ども・子育て支援事業計画)事業進捗状況評価表1」をもとに審議を行った。評価として次の意見を申し上げる。

(1) 教育施設

- ① 市外幼稚園利用者が多い理由について幼稚園利用者のニーズを把握し、市内の子は地域で育てるためにも、地域の施設バランスを考慮しつつ、効果的な取組を行っていただきたい。
- ② 認定こども園の新設を推進すると同時に、既存の施設に対しても移行に関わる周知を積極的に行い、希望する施設に対しては必要な支援を行っていただきたい。

(2) 保育施設

- ① 新園開設による定員増により、待機児童数が減ったことは評価すべきである。今後は、待機児童数とともに、入園率(入園が決まった数÷申込数)の改善も考慮に入れながら、定員の確保に努めていただきたい。
- ② 子ども・子育て支援新制度のもと多様な施設が生まれているが、どの施設においても一定の保育の質が確保され、向上されていくための取組を行っていただきたい。

2 地域子ども・子育て支援事業

地域子ども・子育て支援事業の進捗状況について、別紙2「「のびゆくこどもプラン 小金井」(小金井市子ども・子育て支援事業計画)事業進捗状況評価表2」をもとに審議を行った。評価として次の意見を申し上げる。

(1) 利用者支援事業〔特定型〕

相談支援員は窓口での相談だけではなく、各種会議の参加、親子が集う場への出張相談等も行っていただきたい。また、日中勤務されている方のために、夜間休日の窓口やメール対応についても積極的に検討いただきたい。

(2) 延長保育事業(時間外保育)

延長保育の実施内容を把握し、利用者の状況に即した延長保育を展開いただきたい。

また、延長保育の質的充実に向けた取組を実施いただきたい。

(3) 放課後児童健全育成事業(学童保育)

入所希望に対してそのすべてを受け入れているのは素晴らしいことであ

る。一方、希望者 972 人に対して 810 人の枠しか用意できておらず、施設改修や一部児童館の一時利用など暫定的な対応が行われている。

今後は、抜本的な解決に向け、危機意識を持ちスピード感を持って、必要な定員数を増やす方向で進めていただきたい。

(4) 放課後子ども総合プラン事業

放課後子ども教室と学童保育の垣根を取り払う取組を行っている先進事例を参考に検討を深め、学童保育の生活の場としての機能を担保しつつ、全就学児童に対してよりよい子どもの居場所を提供するようしていただきたい。

放課後子ども教室は生涯学習課、学童保育は児童青少年課の所管であるが、放課後の居場所全体についてのかじ取り役を担う部署を明確にしたうえで、放課後の居場所づくりを推進いただきたい。

また、放課後の居場所のスペースについては、公民館や集会施設の空き部屋等を利用できないか検討いただきたい。

(5) 一時預かり事業

現状では非定型、定期利用は抽選となり、緊急、私的利用は予約が取りにくい。一時預かり事業の実施園が増えるよう検討いただきたい。

3 子ども・子育て支援施策

子ども・子育て支援施策の進捗状況及び点検・評価の結果は、別紙3「「のびゆくこどもプラン 小金井」(小金井市子ども・子育て支援事業計画)事業進捗状況評価表3」のとおりである。

全体として、S評価及びA評価が70%、B評価が27%であったが、来年度は計画期間最終年を迎えることもあり、今後はS評価及びA評価を一層増やすとともに、C評価及びD評価がなくなるよう事業進捗いただきたい。特に今年度重点点検・評価項目として設定された約30事業の中でC、D評価となった「子どもオンブズパーソン」(児童青少年課)、「障害児の緊急・一時預かり」(保育課)、「男女の協力による子育ての推進」(保育課のプレママ・プレパパ事業)は早急に改善を進めていただきたい。

また、計画記載の各事業について、「評価の方法」欄の記載に疑義があるものや、「目標値・実施内容(平成27~31年度)」欄の記載に具体性がないものがあり、どのように評価すべきか判断に窮する事業が見受けられたので、次期計画策定時には適切に評価できるように改善いただきたい。